



千鳥の丘に



実り多き3学期、そして結びに向けて

校長 横山 美智子

「令和6年能登半島地震」により、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。振り返ってみると、2学期は、警報級の大雪となる可能性があることから、一日早い終業式となりました。しかし、その後は大雪になることもなく、コロナ明け初めての新年を迎え、家族と穏やかで楽しいひと時を過ごそうとして矢先、能登半島地震が起きました。一回目の揺れが収まり、他の部屋にいる家族に声をかけたちょうどその時、最大の地震が起きました。その時の自分にできることは、自分の身を守り揺れが収まるのを只々待つしかありませんでした。我が家では、食器棚のコップが割れるなど多少の被害はありましたが、その程度で済んだのは不幸中の幸いでした。

ほどなく、教頭から連絡が入り、学校を点検しているとのことでした。教頭の素早い動きに頭が下がり、私も学校に向かいました。教頭と共に点検、片付けをしていた時、避難所開設の連絡がありました。避難所担当者の用務員に連絡。先に、ござを敷いて大型ストーブを設置する等、準備を進めました。そうこうしているうちに、体育館入り口には避難する方の姿が見られ、中に入れていただくよう対応しました。警察の方や地域の方が巡回中に立ち寄ってくださり、地域の様子を教えてくださいました。大きな被害はないと伺い、安堵しました。

私たち人間は、豊かな自然の恩恵を受けて日々生活していますが、今回のような自然災害が起きた際、本当に無力です。自然災害を止めるのは難しいですが、万が一に備えた身の守り方や避難方法、経路の確認、非常時の持ち出し準備等、事前準備や事後対応について定期的に確認し見直す必要があることを痛切に感じました。千鳥丘小学校閉校まで残り2か月余りとなります。保護者の皆様、地域の皆様との連携、協力をより一層大切にするとともに、子供たちにとって実り多き3学期そして千鳥丘小の結びとなるよう教職員一丸となって支えてまいります。今年もよろしくお願いたします。



